

活動範囲及び装備等

安全かつ効率的な活動を実施するうえで、活動区分・技術により活動範囲及び安全管理上必要な資器材を示す必要がある。

1 消防部隊の活動範囲

浸水区域における効率的な活動を実施するためには、活動内容ごとに活動隊、装備を定め分担すべきである。

環境	活動区分		ゾーニング	技術・資格	安全管理上必要な装備 ()は必要により装備
静水	陸上からの救助 (水際から5m外)		コールド ゾーン		(救命胴衣)
	陸上からの救助 (水際から5m内)		ウォーム ゾーン		救命胴衣
	ボート等による救助		ホット ゾーン	操船技術	救命胴衣、 (胴付長靴等入水可能な装備)
	入水	泳がないで救助	ホット ゾーン		救命胴衣、 検索棒等、 (胴付長靴)、(マリンプーツ)
		泳いで救助		水難救助技術	救命胴衣、ウェットスーツ、 フィン、確保ロープ
流水	陸上からの救助 (水際から5m外)		コールド ゾーン		(救命胴衣)
	陸上からの救助 (水際から5m内)		ウォーム ゾーン		※流水用救命胴衣 (確保ロープ)、(マリンプーツ)
	ボート等による救助		ホット ゾーン	急流救助技術 操船技術	流水用救命胴衣 胴付長靴等入水可能な装備 (流水救助資器材)
	入水	泳がないで救助	ホット ゾーン	急流救助技術	流水用救命胴衣 流水救助資器材
		泳いで救助		急流救助技術 水難救助技術	流水用救命胴衣 流水救助資器材
潜水			ホット ゾーン	潜水技術資格 水難救助技術	潜水資器材

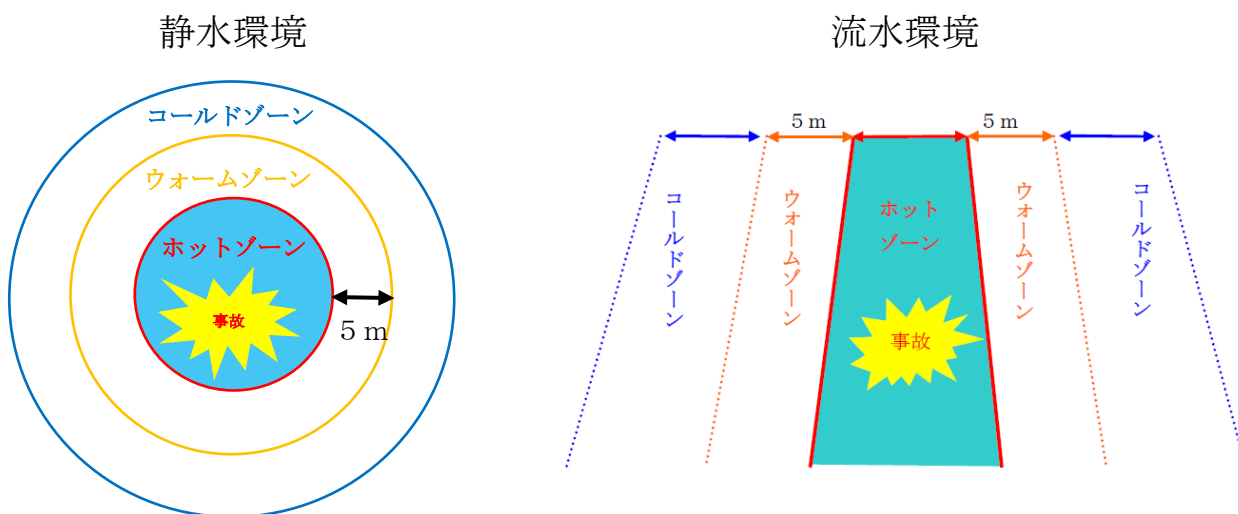
※ 流水用救命胴衣：クイックリリース、カウテールが装備された救命胴衣

2 ゾーニング

水域をホットゾーン（危険地帯）、水際から内陸に向かって約5 mのエリアをウォームゾーン（準危険地帯）、水際から5 m以上離れたエリアをコールドゾーン（安全地帯）とする。

なお、ホットゾーン、ウォームゾーンで活動する隊員は、必ず救命胴衣を着用する。

(ゾーニングの例)



3 主な個人装備 (PPE) 及び救助資機材

(1) 水難救助資格者等専門部隊の装備

ア 流水救助活動時

救命胴衣、ウェットスーツ、ドライスーツ、マリンブーツ、ヘルメット、グローブ、ホイッスル、ライフジャケット、水中ナイフ、フィン

イ 潜水救助活動時

スクーバ、フィン、ヘルメット、ウエイトベルト、水中ナイフ、水中時計

(2) 専門隊員以外の装備

ア 陸上からの救助活動時

活動服、救命胴衣、編上作業靴

イ ボート等による救助活動時

活動服、合羽、救命胴衣、編上作業靴（長靴）

ウ 入水による救助活動時

活動服、合羽、救命胴衣、胴付き長靴（編上作業靴）



【入水時の装備例】

現在検討しているのは、活動服、合羽、救命胴衣、編上作業靴、安全帯（左写真参照）。足部には水が入るが、合羽を安全帯（ベルト）で締め、皮膚に水が触れる面積を抑える目的。防火服や通常の活動服では汚染水による感染や低体温の危険、活動時の水抵抗を考えると支障になる。